



年 組 ( ) 名前

サイン



◆千葉県で地域住民たちが力を合わせて、大きなわらじを作ったそうです。

(2023年2月14日 読売新聞千葉版より)

### 見出し

富津市関尻の集会所で、疫病退散などを祈願する大わらじ作りが行われた。住民14人が2時間で大わらじ三つを編み、道路沿いにつり下げた。

関尻地区には、長さ約150センチ、幅約60センチの大わらじを3か所の道路沿いにつり下げる「綱つり」の伝統がある。過去2年はコロナ禍で製作時期が4月にずれ込

んだが、今年は本来の2月に実施した。

「大きなわらじを履く大男がここにはいるぞ」と見せつけ、災いをもたらすものが寄りつかぬよう願う。大わらじに添える炭と杉の枝、酒だるには、疫病が「済み（炭）ました」「過ぎ（杉）ました」と疫病神に悟らせ、穏やかに去るよう酒でもてなす意味があるという。

地区班長の渡辺三男さん(75)は「新型コロナが収まって元通りの生活に戻ってほしい」と話した。

【1】この記事の見出しを考えましょう。

【2】「わらじ」とはどのようなものですか。

【3】昔の人が「わら」で作っていたものはたくさんあります。どのようなものが作られていたか、調べましょう。

年 組 ( ) 名前

サイン

◆愛知県の公立学校は、年3日まで平日に学校を休める  
全国初の制度「ラーケーションの日」を導入します。

CHECK! 愛知県の「休み方改革」

- 公立学校の児童・生徒に年3回の休日「ラーケーションの日」創設
- 公立学校は「あいちウィーク(11月21～27日)」のうち1日を休みに
- 平日に割引キャンペーンを行う旅行会社やホテルを県がPR
- 従業員の有給休暇の取得に積極的な中小企業も県がPR etc.



家族そろって休めるように!

# 年3日「学休」OK！ 愛知の公立校

**教育** 愛知県の<sup>つとむ</sup>大村秀章知事＝写真＝が16日、子どもの「休み方改革」に向けた全国初の新制度を発表した。県内の公立学校の児童・生徒は来年度の2学期以降、年3日までなら登校しなくても欠席扱いにしないという。



## 家族と博物館、体験学習… 欠席にせず

その名も「ラーケーションの日」。<Learning (学習)>と<Vacation (休暇)>を組み合わせた造語だ。平日に家族と博物館や美術館に行ったり、体験学習に参加したりすることを想定しており、3日まとめて取得することも可能。テーマパークなどで遊ぶのも、何かしらの学習目的

があればOKだという。ただし、この間の授業の内容については自習でカバーすることになる。

大村知事は「保護者が『ラーケーションの日』に休暇を取得し、一緒に学習を楽しむことは大人の休み方改革にもつながる」と説明する。大人の有給休暇の取得が促されるほ

か、公共施設や観光地などの平日の来訪者が増えて地域経済が活性化することも期待できるという。

愛知県では今後、上の表のような取り組みを進めて「相乗効果」を生み出したい考えだ。

(2023年3月24日 読売中高生新聞より)

【1】「ラーケーションの日」は、家族と校外での学習活動などに出かけやすくなります。ただ、この間の授業内容は自習でカバーすることになります。これらをふまえて、この制度について、あなたの考えを書きましょう。

はってん

【発展問題】あなたなら「ラーケーションの日」をどのように過ごすか、書きましょう。

年 組 ( ) 名前

サイン

◆九州職業能力開発大学の学生たちが、人と協働する船型ロボットを開発しました。  
(2023年4月1日 読売新聞夕刊より)



# 海ごみ回収 支援ロボット

海洋ごみを減らそうと、九州職業能力開発大学校（北九州市）の学生たちが、ダイバーのごみ回収作業を支援する船型ロボットを開発した。ダイバーが水中に潜って集めたごみを載せ、岸まで運ぶ仕組みで、人と協働するロボットだ。学生たちは、実用化に向けた改良を後輩に託し、同校を巣立った。

## 人と協働 岸まで運ぶ

ロボットの名は「海の宅配便」（長さ101㌢、幅88㌢、高さ38㌢）。ボディボードの前後左右にフロートや推進力を生む器具を取りつけ、バッテリーで動く。中央部分にごみを載せる容器を設置した。学生らは遠隔操作・監視のシステムも開発。無線でパソコンとつなげ、コントローラーで操作する。

昨年12月には北九州市の紫川河口付近で試験航行を実施。市民団体「ミス



水中で拾い集めたごみをロボットに載せる福田さん（昨年12月、北九州市の紫川で）



「海ごみ運搬ロボット「海の宅配便」と、開発に取り組んだ学生たち」

ターダイバー」代表の福田佑介さん（36）が川の中からポリ袋や菓子袋を拾い集め、近寄ってきたロボットの荷台に上げた。福田さんは「ロボットと一緒に動いてくれたら、体力を維持しながら多くのごみを拾える」と評価した。

## 実用化へ 後輩にバトン

開発のきっかけは昨春、同校の寺内越三・職業能力開発教授が福田さんと知り合い、ダイバーによるごみ回収の大変さを知ったことだ。大学4年にあたる応用課程2年の学生6人が実習の一環で始めた。

ロボットの形や大きさ、動き方を検討。積載できるごみの重さを増やしたり、無線通信が届く距離を伸ばしたりしたほか、制御装置の軽量化を図るなどの改良を重ねてきた。昨年11月に北九州市などでつくる実行委員会が開いた海洋ごみ清掃のロボットコンテストでは、国内外20点（学生一般部門）の中で最優秀賞に輝いた。

試験航行で無線の通信トラブルが発生するなど課題もある。リーダーで設計担当の山下龍誓さん(22)は「ダイバーに使ってもらい、助かると思ってもらったのは良かった。後輩たちは実用化に向け頑張ってもらいたい」と話した。

【1】このロボットはどのようにごみ回収を支援しますか。実用化に向けた課題も書きましょう。

.....

.....

.....

【発展問題】この記事を読み、あなたならどのようなロボットを開発して、海の環境を守りたいと思いましたか。裏に書きましょう。



年 組 ( ) 名前

サイン



## Fishing season starts for 'jewel of Toyama Bay'

◆「富山湾の宝石」と呼ばれるシロエビの漁が解禁されました。

(2023年4月3日 THE JAPAN NEWSより)

TOYAMA -- The fishing season for shiroebi Japanese glass shrimp, which are called "the jewel of Toyama Bay" for their clear, pale pink-colored body, opened on Saturday.

Four fishing boats set out from the Shinminato fishing harbor in Imizu, Toyama Prefecture, to the fishing grounds about 3 kilometers offshore at around 4:30 a.m.

About 2.1 tons of glass shrimp were landed, which is almost the same amount as last year's first-day catch.

Glass shrimp are about five centimeters in length.

"I've gotten off to a good start," one boat owner said. "With the pandemic settling down, I hope many people will come here and enjoy the shrimp."

The fishing season runs through the end of November, with the peak in July and August.

Fishing season: 漁期、jewel: 宝石、  
Toyama Bay: 富山湾、shrimp: エビ、pale:  
薄い、淡い、set out: 出発する、  
Prefecture: 県、fishing grounds: 漁場、  
Offshore: 沖合の、land: 水揚げする、  
first-day catch: 初日の漁獲量、  
get off: 出発する、boat owner: 船主、  
pandemic: 新型コロナウイルスの世界的  
感染、settle down: 静かになる、落ち着く、  
run through: 続く、peak: 最盛期

【1】漁解禁初日のシロエビの漁獲量を英語で書きましょう。

【2】シロエビが「宝石」と呼ばれているのはなぜですか。英語で書きましょう。

新聞や本に  
書かれていることを  
理解したい!



そんな児童・生徒の想いを  
サポートするには…

自分の  
気持ちや考えを  
もっとうまく  
文章にしたい!



文部科学省後援事業

# 日本語検定

令和5(2023)年度実施予定 お問い合わせは日本語検定委員会事務局 ☎0120-55-2858

主催

特定非営利活動法人  
日本語検定委員会

特別協賛

読売新聞社

協賛

時事通信社/東京書籍 他

後援

文部科学省/日本商工会議所/経団連事業サービス/全国連合小学校長会/全日本中学校長会/全国高等学校長協会/全国工業高等学校長協会/全国商業高等学校長協会/全国高等学校国語教育研究連合会/日本PTA全国協議会/全国高等学校PTA連合会/日本青少年育成協会 他(令和5年2月現在)

実施回

一般会場

準会場

申込期間

第1回  
(通算第33回)

6/10(土)

6/9(金)・10(土)

3/1(水) - 5/12(金)

第2回  
(通算第34回)

11/11(土)

11/10(金)・11(土)

8/1(火) - 10/13(金)

## ● 団体受検のすすめ

5名以上なら団体受検がおススメです。



【団体受検のメリット】

- ① 学校や企業などの施設で受検可
- ② 団体受検料金を適用
- ③ 団体カルテを提供

※団体受検のお申し込みには過去問題の特典はつきません  
<https://www.nihongokentei.jp/exam/team/>



## ● ミニテストのご案内

児童・生徒の「言葉の力」を高めるために  
ミニテストをご活用ください。ミニテストは  
「日本語検定」の問題をコンパクトにまと  
めたもので、無料でご利用いただけます。

※日本語検定HPの「日本語検定ミニテストページ」か  
らダウンロードしてください。印刷してお配りいた  
だくことも可能です

<https://www.nihongokentei.jp/minitest/>



## ● 読売新聞専用お申し込み

「読売新聞専用申し込みフォーム」から申し込んだ方には、  
特典として受検前に過去問題1回分の検定問題と解答・  
解説冊子を差し上げます。



※読売専用フォームから申し込む方は、  
アクセスコードEEaPMCzqCYs5を入力して下さい。  
[https://kyoiku.yomiuri.co.jp/event/boshu/  
contents/610.php](https://kyoiku.yomiuri.co.jp/event/boshu/contents/610.php)

